

# 円山川 河川管理レポート

平成26年度

平成27年2月

近畿地方整備局  
豊岡河川国道事務所

## 0. 目次

1. 円山川の概要
2. 維持管理の目標
3. 平常時の河川管理の概要
4. 出水時、地震時の河川管理の概要
5. 平成26年度の取り組み結果
6. 平成26年度のトピックス

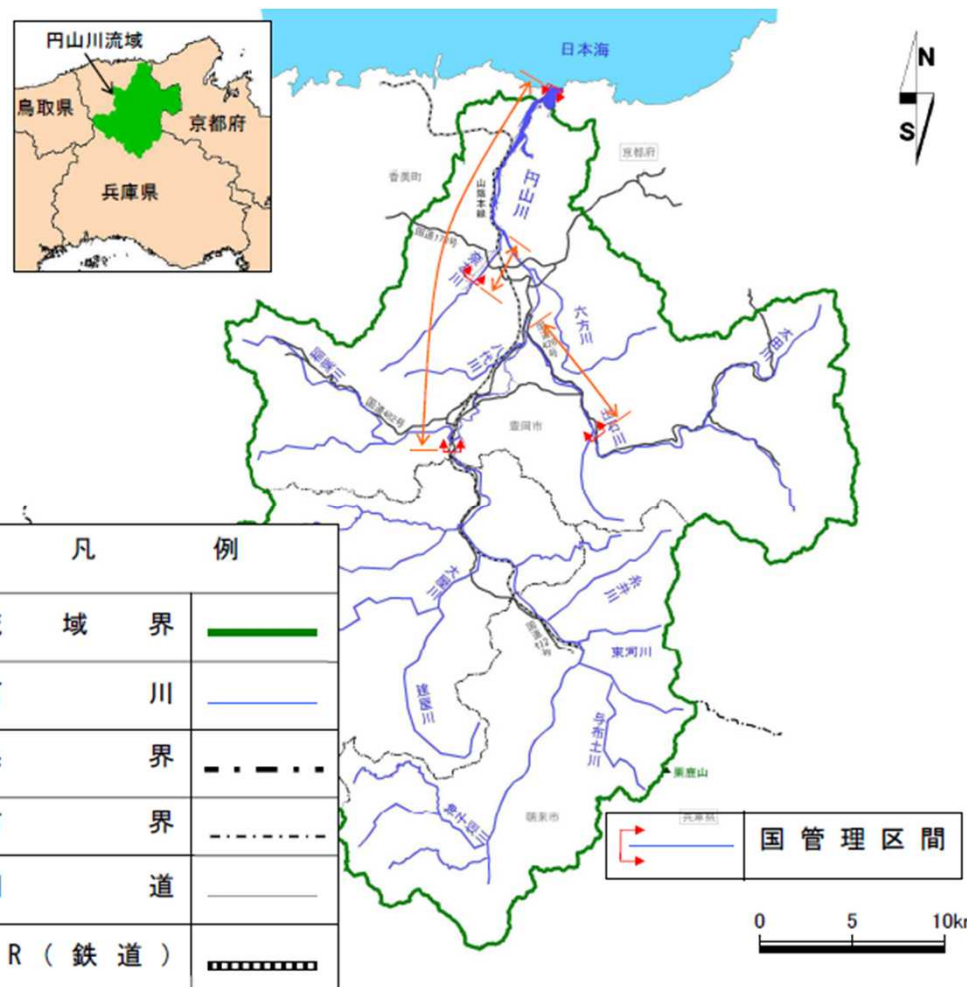
# 1. 円山川の概要

豊岡河川国道事務所 直轄管理区間

円山川 河口から27.7kまで  
 出石川 円山川合流点から8.7kまで  
 奈佐川 円山川合流点から4.1kまで

円山川幹川流路延長 68km  
 流域面積 1,300km<sup>2</sup>  
 流域内人口 約14万人

円山川は、源を兵庫県朝来市生野町円山（標高640m）に発し、大屋川、八木川、稲葉川等の支川を併せて北流し、豊岡盆地にて出石川、奈佐川等を合わせ日本海に注ぐ幹線流路延長68km、流域面積1,300km<sup>2</sup>の一級河川です。



## 2. 維持管理の目標

### 河川維持管理計画（平成24年4月27日策定）

河川維持管理計画とは・・・概ね5年間を計画対象期間とし、河川整備計画に沿って、河川維持管理を適切に実施するために必要となる具体的内容を定めるものです。

河川整備計画とは・・・河川法（昭和39年法律第167号）第16条の2第1項に基づき、計画対象期間（概ね20～30年間）における河川整備の具体的な内容を定めることにより、河川整備の計画的な実施の基本となるものであり、河川の特性や地域の実情等を踏まえ、河川の維持の目的、種類及びその施行箇所に関する事項を含むものです。

### 円山川での目標

#### ○河道の流下断面の維持

- ①維持掘削：現況の流下断面を維持するために、必要に応じて堆積土砂を掘削する。
- ②樹木伐開：現況の流下断面及び河川管理施設の健全性を維持するために、河川環境（景観を含む）に留意しつつ、必要に応じて治水上障害となる樹木を伐採する。
- ③堤高維持：軟弱地盤上に築造された堤防高を維持するために、定期的に天端高の面的なモニタリングを行い、必要に応じて堤防の嵩上げを行う。

#### ○施設の機能維持

災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から、河川の有する多面的な機能を十分発揮できるよう、堤防・護岸・樋門樋管等の維持・修繕及び堤防点検（除草）等を定期的に行う。また、河川の機能が正常に保たれているか、堤防や樋門・樋管等に異常がないか、水質事故や不法投棄が発生していないか等、管理区域内の河川巡視を行う。

#### ○河川区域の適正な利用

河川区域、河川保全区域が、治水、利水、環境の目的と合致して適正に利用されることを目標とし、河川敷地の不法占用や不法行為等に対し適切に対応を行う。

#### ○河川環境の整備と保全

コウノトリをはじめとする生物の多様性や、湿地・礫河原・河畔林・瀬・淵といった良好な河川環境を保全する。また、流域社会と調和した美しい水辺景観の保全・向上に努める。

### 3. 平常時の河川管理の概要

■ 平常時の河川管理の概要は下記のとおりです。

- ・ 状態把握・・・測量、巡視、点検（除草）
- ・ 維持管理対策・・・施設補修・更新、樹木伐採、維持掘削、塵芥処理、不法行為対応



陸上からの監視



水上からの監視



河川の点検状況



排水機場の点検状況①



排水機場の点検状況②

## 4. 出水時、地震時の河川管理の概要

### ■出水時の河川管理の概要は下記のとおりです。

- ・ 情報収集、発信、提供・・・水文観測、気象情報、防災へり、CCTV
- ・ 状態把握・・・巡視
- ・ 施設操作・・・樋門、水門、排水機場等
- ・ 緊急対応・・・災対車、緊急復旧
- ・ 水防活動支援・・・情報提供、資機材支援

### ■地震時の河川管理の概要は下記のとおりです。

- ・ 震度5弱以上、大津波警報、津波警報、津波注意報発令時  
状態把握・・・巡視  
点検・・・堤防、護岸、樋門、水門、排水機場等  
情報収集、発信、提供・・・水文観測、気象情報、防災へり、CCTV  
施設操作・・・樋門、水門、排水機場  
緊急対応・・・災対車、緊急復旧  
水防活動支援・・・情報提供、資機材支援



排水ポンプ車等災害対策車の派遣



排水ポンプ車による排水状況

## 5. 平成26年度の取り組み結果①

### 【平常時の河川管理】



堤防点検状況①



土のうの準備状況



堤防点検状況②



樋門操作員(現水門等水位観測員)講習会

・パトロール車による巡視は週2回、船舶による巡視は月2回(出水期は週1回)を実施しました。

樋門、排水機場については操作員により月1回(出水期は月2回)の点検を実施しました。

・堤防点検を「出水期前」「台風期・出水期後」の年2回(6月頃と10月頃)行いました。併せて、除草を2回行いました。

・出水に対応するため、立野防災ステーションで水防資材(大型土のう、小型土のう)の準備をしました。

・樋門、排水機場には操作員を任命しており、講習会や操作訓練を実施しました。

講習会開催日 5月29日

操作訓練 6月6日

## 5. 平成26年度の取り組み結果②

### 【出水時の河川管理】



出水状況の確認

- ・ 台風などの出水により防災体制を発令し、樋門操作等を行った出水が9回ありました。
- 7月・・・台風8号出水「注意体制」
- 8月・・・台風11号出水「第一警戒体制」  
前線出水「注意体制」
- 9月・・・前線出水「注意体制」  
前線出水「注意体制」
- 10月・・・台風18号出水「注意体制」  
台風19号出水「第一警戒体制」
- 1月・・・低気圧出水「注意体制」  
低気圧出水「注意体制」

- ・ 非常体制: 国民の生命・財産に重大な被害を及ぼすような災害が発生又はその恐れがある場合の体制  
(例: 震度6以上の地震、大津波警報発令、洪水により河川堤防が決壊またはその恐れがある場合等)
- ・ 警戒体制: 非常体制に至らない災害が発生又はその恐れがある場合の体制  
(例: 震度5以上の地震、津波警報発令、洪水により河川護岸等の施設被害発生等またはその恐れがある場合等)
- ・ 注意体制: 災害の発生に対して注意が必要な場合の体制  
(例: 震度4以上の地震、津波注意報発令、洪水により一定基準の水位に達した場合等)



## 5. 平成26年度の取り組み結果③

### 【樹木伐採】

- ・洪水の流下に支障となる樹木を伐採しました。



伐採前



伐採後

### 維持掘削

- ・洪水の流下に支障となる土砂を掘削しました。



掘削前



掘削後

## 5. 平成26年度の取り組み結果④

### 【施設の機能維持】



許可工作物指導状況

- ・河川管理施設、許可工作物等について点検を行いました。

#### 点検箇所数

##### 河川管理施設

樋門、水門 27箇所

(揚)排水機場 5箇所

許可工作物 98箇所



安全利用点検状況

- ・利用者の多い箇所について、安全利用点検を実施しました。

また、危険箇所へ看板設置を行いました。



危険箇所への看板設置状況

実施日 平成26年4月23日から24日

平成26年7月24日

実施区間

円山川、出石川、奈佐川の直轄区間

## 5. 平成26年度の取り組み結果⑤

### 【河川区域の適正な利用】

・河川区域、河川保全区域が、治水、利水、環境の目的と合致して、適正に利用されることを目標とし、河川敷地の不法占用や不法行為等に対し適切に対応を行います。



不法投棄の状況

・巡視業務等で発見した不法投棄について、回収しました。

・全国で「全国プレジャーボート実態調査」が実施され、直轄管理区間について調査を実施しました。

当該調査は4年に一度行われるもので、河川内の船舶について調査を行いました。



全国プレジャーボート実態調査



境界の立会

・河川との境界について、適切に管理できるよう関係者等と立会を行いました。

## 5. 平成26年度の取り組み結果⑥

### 【河川環境の整備と保全】

円山川では自然再生事業の一環として、大規模湿地再生を加陽地区で行っています。湿地再生の目的は、コウノトリを頂点とした多様な生物の生息生育環境の再生にあります。人と川との関わり合いを再構築する場として、環境学習や自然観察などが出来るような整備も併せて実施しています。

また、生息生育環境の再生の具体的な目標として、判りやすさを考慮しコウノトリの飛来数としています。

コウノトリの飛来状況調査を秋季4日、冬季4日実施しました。

加陽湿地におけるコウノトリ飛来数は、秋季、冬季合わせてつぎのとおりです。

平成25年度・・・のべ46羽

平成26年度・・・のべ80羽

平成26年度の飛来状況は平成25年度と比べてのべ34羽多い結果となっています。



## 6. 平成26年度のトピックス



①加陽湿地「水辺まつり」の開催

①自然再生事業中の出石川において、加陽湿地「水辺まつり」が開催されました。

これは、既に完成している一部の湿地を管理している地元加陽地区が主催、豊岡市と豊岡河川国道事務所が共催で開催しました。

開催日時 : 8月 3日

参加者 : 約350人



②台風23号10周年メモリアル  
防災の集い

②円山川において大きな被害が発生した平成16年台風23号から10周年を迎え、水害の怖さを今一度振り返り、記憶の風化を防ぐとともに、公助の限界や自助・共助の重要性について再認識することを目的に、改めて市民に対して災害に対する備えを呼びかけるべく、10周年メモリアル事業を開催しました。

開催日時 : 10月19日

参加者 : 約200人



③出水の状況

③10月13日から14日にかけて来襲した台風19号による出水は、立野観測所ではん濫注意水位4.5mを越える4.91mを記録しました。